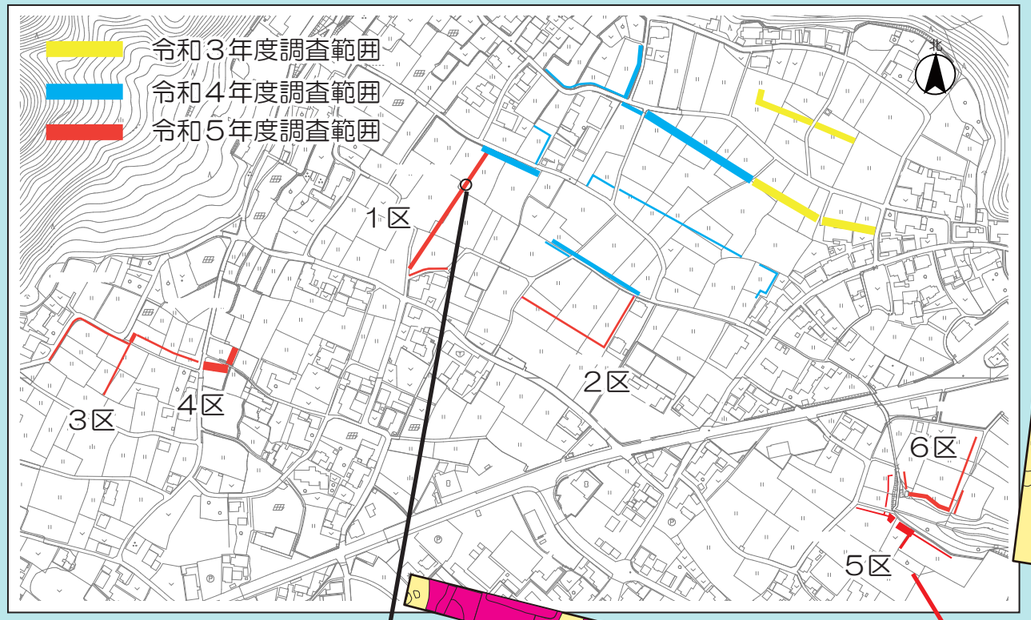
平安時代末～室町時代（戦国期）の建物の柱穴や溝、土器などが見つかりました。

調査の結果、掘立柱建物の柱穴と思われる小穴や、土坑、溝などが見つかりました。当時の集落は、建物が密集する様子はなく、現在の調査地周辺のように、田畑の縁辺に屋敷が点在する風景が広がっていたと考えられます。

また、遺物は土師器の鍋や小皿、陶磁器の甕や椀、釘や刀子などの鉄製品が出土しました。その中でも平安時代末の土器には、南伊勢・渥美半島産の他に、奈良や伊賀から運び込まれたものが含まれており、注目されます。

令和３年度から３ヶ年にわたる発掘調査で、中世集落の様子や、当時の物流の様子がわかり、櫛田川流域の歴史を知る上で重要な成果を得ることができました。



1区　土坑

平安時代末の方形土坑です。一辺 2.3m以上、深さ約 0.3mで、掘立柱建物の屋内にあったものと考えられます。

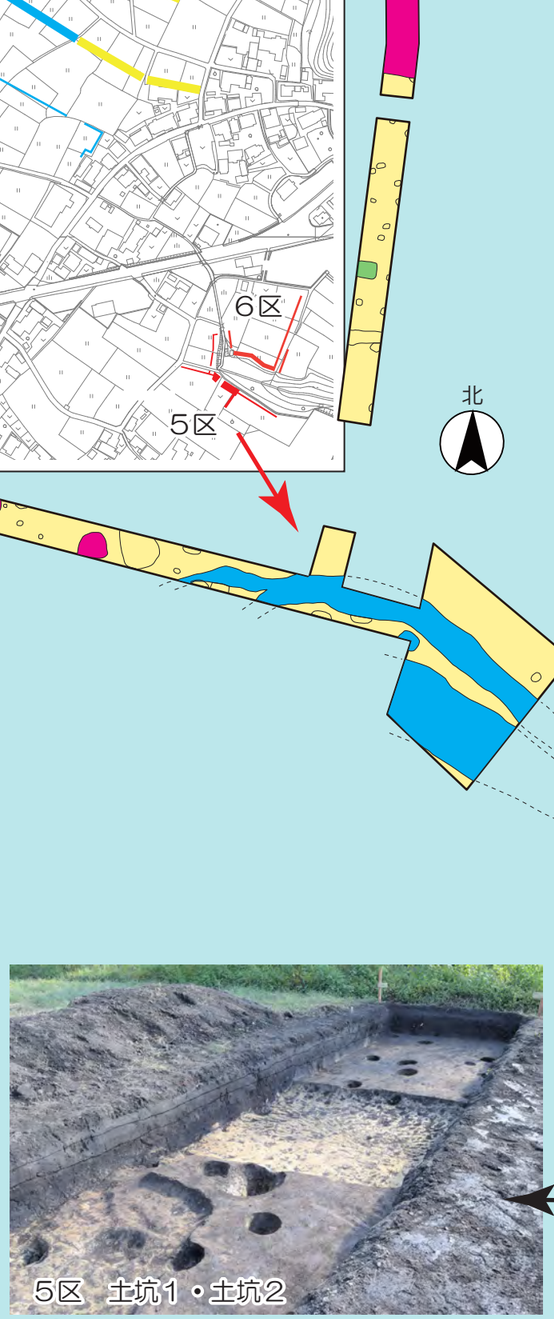
土坑から南伊勢産の土師器鍋や、渥美半島産の山茶椀、そして奈良や伊賀から運び込まれた瓦器椀が出土しました。

5区　溝１から出土した一石五輪塔

5区　溝１・溝２

室町時代（戦国期）の溝です。延長約 40m、幅約 1.2mで、深さは最も深い所で約 0.8mあり断面の形が逆台形になっています。溝２の北西端をみると、南西に折れ曲がっていくようです。

溝から青磁椀や瓦質土器、南伊勢産の土師器鍋や皿、一石五輪塔が出土しました。


5区　土坑１・土坑２

鎌倉時代の方形土坑です。一辺 2.5～3ｍほどの大きさで、掘立柱建物の屋内にあったものと考えられます。

土坑から南伊勢産の土師器鍋や皿、渥美半島産の山茶椀が出土しました。

小片野新田遺跡の５区遺構配置図（１：300）

遺構の時期
：鎌倉時代
：室町時代（戦国期）
：江戸時代～現代

☆遺構…むかしの人々の生活の跡

小片野新田遺跡（第３次）発掘調査
現地説明会資料

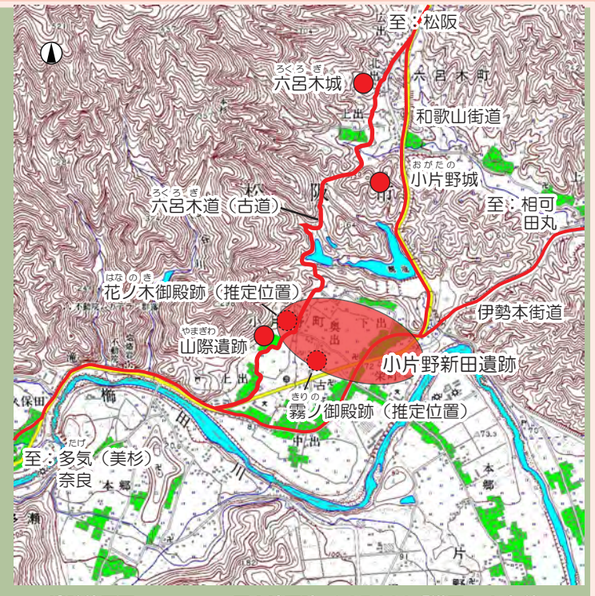
主催：三重県埋蔵文化財センター
開催日：2023（令和５）年 11 月 11 日（土）

５区　室町時代（戦国期）の溝（北西から撮影）

三重県埋蔵文化財センターでは、高度水利機能確保基盤整備事業にともない、令和３年度から松阪市小片野町にある小片野新田遺跡の発掘調査を行っています。

小片野新田遺跡は、櫛田川中流左岸の台地上に立地する遺跡です。室町時代（戦国期）には、本遺跡の西から北にかけて古道が通り、北には六呂木城・大河内城を経て松阪へ、西は高見峠・仁柿峠を抜けて奈良・美杉へと通じる立地から、小片野新田遺跡は交通の要衝の地でした。また、遺跡内には、戦国期に「花ノ木御殿跡」や「霧ノ御殿跡」という居館があったと明治時代の地誌に記されており、北畠氏に関係する有力者の存在が想起されます。

今年度の調査では、平安時代末（約９００年前）から室町時代（戦国期）（約５５０年前）の、掘立柱建物の柱穴や土坑１３基、溝１２条などが見つかりました。



遺跡位置図　　国土地理院 1:25,000「横野」に加筆

主な出土遺物

平安時代末（１区の土坑から）

鉄製品の刀子

鎌倉～室町時代（３区・５区から）

鎌倉時代（３区・４区から）

室町時代（３区から）

室町時代（戦国期）（５区の溝１・溝２から）

一石五輪塔

調査遺跡名　：　小片野新田遺跡（第３次調査）
所在地　：　三重県松阪市小片野町
原因事業名　：　高度水利機能確保基盤整備事業（北谷地区）
調査実施機関　：　三重県埋蔵文化財センター　〒515－0325　三重県多気郡明和町竹川503
TEL：0596－52－1732 / FAX：0596－52－7035
https://www.pref.mie.lg.jp/maibun/hp/